

よいこのあんぜんニュース

2026年(令和8年)2月8日発行 472号付録

少年写真新聞 株式会社 少年写真新聞社

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14 HF九段南ビル URL <https://www.schoolpress.co.jp/>
©少年写真新聞社 2026 年 ※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

★定期刊行物は終わる期日を予定しない刊行物です。年度が替わりましても購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

マナーやルールを守って 鉄道に乗りましょう

全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子

寒い日が続きますが、少しずつ春の兆しが見えてくる2月です。5歳児は卒園に向けての活動が始まり、鉄道に乗ってお別れ遠足に出掛けることを計画する園もあるのではないのでしょうか？ 子どもにとって鉄道に乗ることは大冒険でとても楽しいものですが、電車は公共交通機関です。様々な人が乗っています。マナーやルールを知り、守り、安全に乗ることで、社会性を身につける機会としたいものです。大人が見本を見せながら、子どもと鉄道の旅を楽しみましょう。

ホームでは

ホームでは、転んだり、周りの人にぶつかったり、ホームに転落したりしないように、走らず、前を見て安全に注意しながら歩きます。

鉄道を待つときや、ホームを歩く際には、黄色い線（点字ブロック）の内側まで下がります。最近ではホームにホームドアが設置され、整列位置を示す線も書かれています。静かに整列して、鉄道が来るのを待ちましょう。ホームを歩く際には、ゲーム機やスマートフォンなどを見ながら歩く「ながら歩き」をしないようにしましょう。人にぶつかったり、ホームから転落したりしてしまう危険があります。ゲーム機やスマートフォンを見る場合には、ホームのベンチを探し、座ってから見ましょう。

鉄道に乗るとき

鉄道がホームに近づくと、たくさんの人が

乗り降りします。鉄道のドアが開く真正面に立つと、降りる人の迷惑になりますので、乗車位置の線やドアが開く位置の端に避けて待ち、降りる人を優先し、降りる人がいないことを確認してから、並んだ順に乗り込みましょう。乗り込んでからは入り口に立ち止まらず、できるだけ電車の奥に移動しましょう。

鉄道のドアが閉まりそうなところに、走って乗り込むことは危険です。人とぶつかる危険や鉄道とホームの間には隙間があるため、足を踏み外して落下する危険があります。慌てて乗り込まず、次の鉄道を待ちましょう。

鉄道の中では

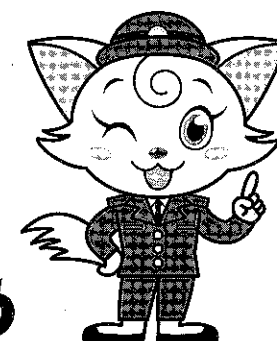
鉄道の中では、周りの人に迷惑をかけないようにしましょう。走ったり、騒いだり、床に座り込んだり、座席に靴を履いたまま座ったりしないようにしましょう。

車内では、ルールやマナーについてのアナウンスが流れます。携帯電話の使用について、「車内ではマナーモードに設定のうえ、通話をご遠慮ください」と流れます。また、「優先席付近では、混雑時には携帯電話の電源をお切りください」というアナウンスも流れます。総務省の指針により、携帯電話端末と植え込み型医療機器の装着部位との距離が15cm以下になることがないように、注意を払うことが求められています。装着している方は携帯電話端末と装着部位との距離が近いことに不安を感じられていることもある、ということも考慮して、アナウンスに従いましょう。

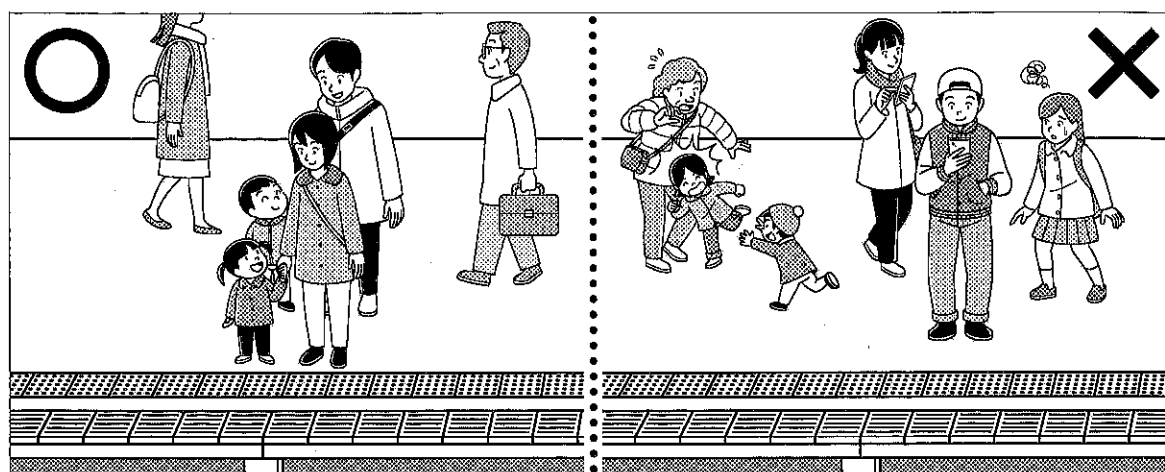
あんぜんだより

監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子先生

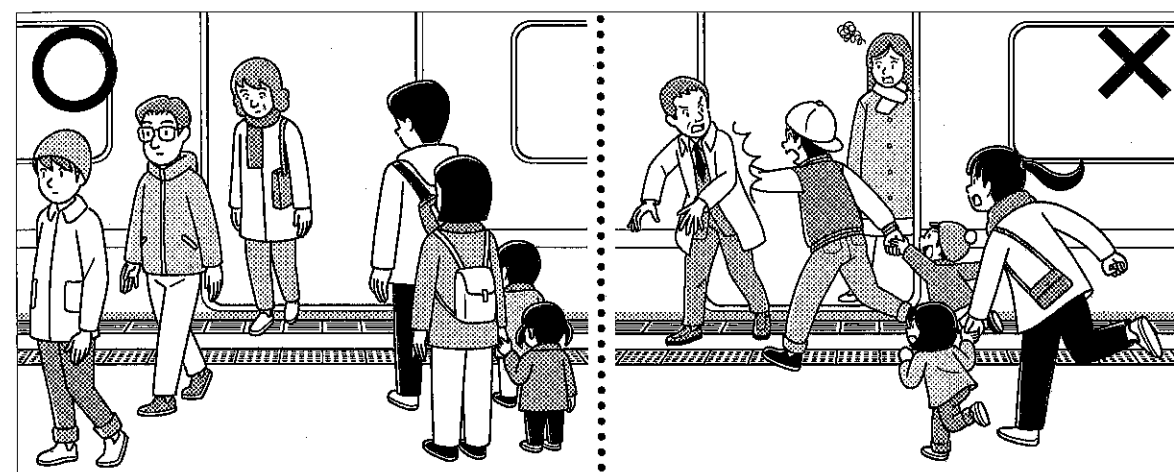
鉄道は誰もが気軽に利用できる交通機関ですが、ルールやマナーを守らないと、思わぬ事故やけが、対人トラブルを引き起こしてしまいます。公共の場所であるということを意識して、自分たちだけではなく、周囲の人も気持ちよく、安全に過ごせるようにしましょう。



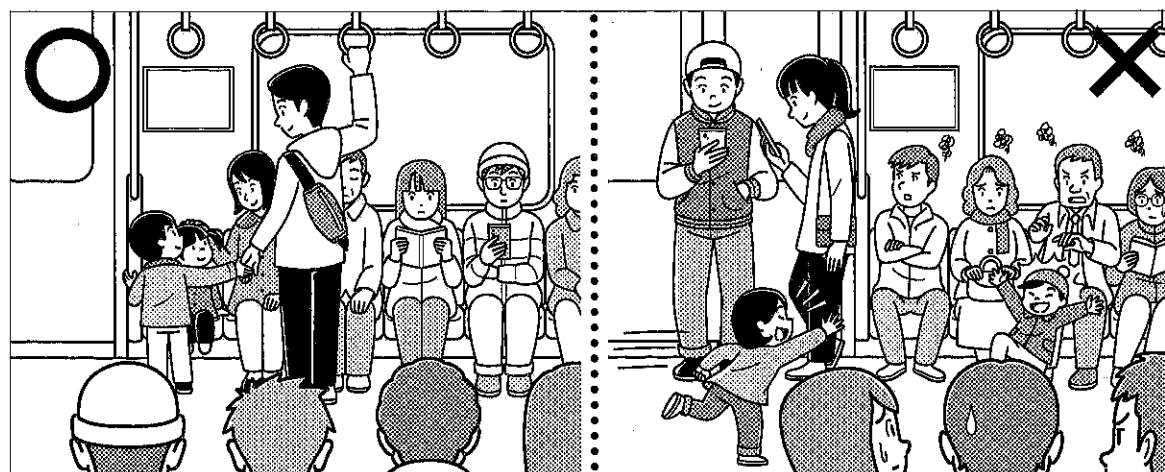
鉄道を安全に利用するためのルールとマナーを身につけましょう でんしゃに のる ときの やくそくを まもって あんぜんに のろうね



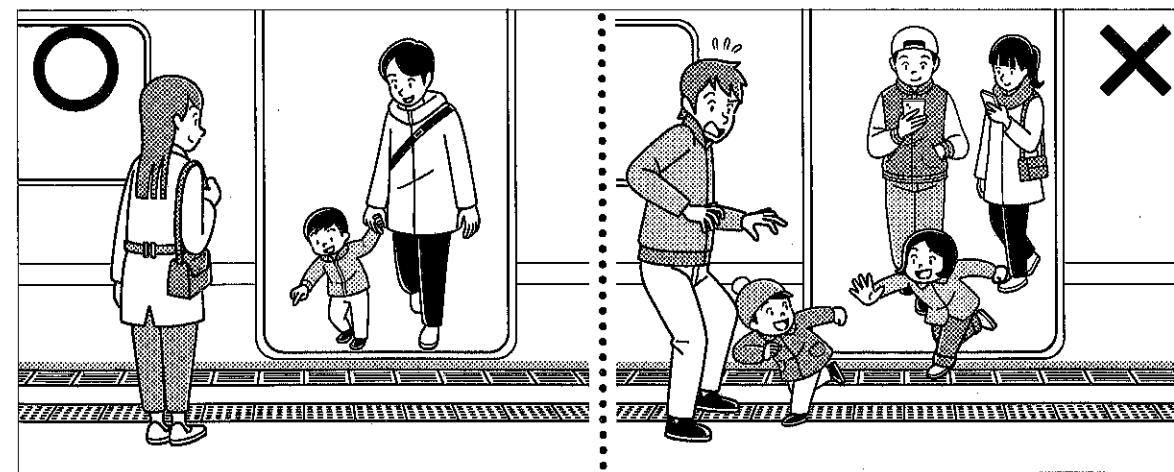
さんの うちがわで でんしゃが くるのを しずかに まつ。



おりる ひとが すんでから じゅんばんに のりこむ。



てすりを つかんで たつか あいた せきに すわる。



まわりと あしもとを よく たしかめながら おりる。

保護者の方へ 電車の到着を待つときは、ホーム上に引かれた点字ブロックの線よりも内側で、乗車位置の表示に従い、整列して待ちます。ホームドアが設置されている駅では、寄りかかったり、外に身を乗り出したりしてはいけません。乗り降りは、我先にではなく順番を守り、後ろの人がつかえないよう、前の人に続いてスムーズに行きます。乗車中は、空席があれば座り、立つ時にはしっかりと手すりをつかみます。自分たちだけではなく、周囲の人も気持ちよく、安全に過ごせるように気を配りましょう。

3月号では「道路を歩くときの約束」について取り上げます。

今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい 電車のマナーを通じて、身の安全の守り方、公共の場所での振る舞い方を身につける



【左のイラストを示しながら】①電車が来るまでは、ホームの線より内側で待とう。線路の方に近づいてはいけないよ。②電車が止まってドアが開いても、すぐに乗り込んではいけないよ。降りる人が先だよ。乗る時は、足元をよく見てね。

【中央のイラストを示しながら】③電車の中では、いすに座ろう。空いていなかったら、手すりにつかまって立とうね。ふざけて走り回ったり、大声で騒いだりして、周りの人に迷惑をかけないようにしようね。

【右のイラストを示しながら】④電車から降りるときも、足元をよく見ないとけがをするよ。気をつけて降りようね。

展開例

みんなは、お出かけする時に電車に乗ったことはあるかな。おうちの中と違うから、きちんとルールを守って乗ろうね。

公共交通機関のルール、合い言葉は「うさぎ」

～わかる言葉で、自らルールを守れる子どもに～

公共交通機関の鉄道やバスなどの車内は、“公共”の場であり、自宅や自家用車の車内のように自分が好きなように過ごせる場ではありません。子どもが成長とともに自分の行動範囲を広げていく中で、他者との関わりが増えていきますが、他者に迷惑がかからないようにしなくてはならないということを、子どもは学ぶ必要が出てきます。もちろん、保護者にもそれを子どもにしっかりと伝えなければならぬ責務があります。そして、自らルールを守り、自分の家族などの身近な人たちにも伝えられるような子どもに成長してもらいたいものです。

キッズマナーインストラクターの赤名麻由子さんは、公共交通機関のルールを「うさぎ」という言葉で子どもと共有す

ることを勧めています。「う」は「うごかない!」、「さ」は「さわがない!」、「ぎ」は「行儀よくする」の頭文字をとったもので、これを合い言葉にして、子どもと共有するとよいといえます。車両の中で、子どもが落ち着かなくなったときに、「動かない!」というように「だめ出し」をするような声かけをするよりも、子どもと「うさぎ」の合い言葉の意味を共有して、「ほらほら、うさぎさんだよ」と声をかけるわけです。

俗にいう「とげとげ言葉」を「ふわふわ言葉」に換える試みですが、ほかにも応用ができそうです。子どもたちと一緒に、このような合い言葉を考え、共有してみてはいかがでしょうか。

資料 「マナー講師が子どもに伝えたい公共交通機関のルール、合言葉は『うさぎ』!」 HugKum Webサイト 2022年5月